

二〇一五年度大学入試センター試験 解説 〈現代文〉

第1問 評論 佐々木敦 『未知との遭遇』

〔総括〕

一昨年・昨年のテーマ、内容ともに読み取りづらかった文章に比べると、テーマが現代的であり、「ネット」「リテラシー」「歴史」「啓蒙」など、内容が多岐にわたっている点を読み落とさなければ、読み取りはそれほど難しくくない。ただ全体で見ると、三行の選択肢の設問が三問出題され、選択肢の字数が増加したため、解答に手間取った受験生が多かったのではないだろうか。

設問別では、問1の漢字がやや難。問2と問4は選択肢の吟味が必要。問5は全体を踏まえた要約的理解が求められる問題。問6は前年の「表現と構成」について問う問題（小問二問構成）ではなく、八つの選択肢が用意された中で、「適当でないもの」を二つ選ぶ問題で、選択肢と本文との照合に時間がかかる。

〔解説〕

問1 漢字問題 基礎

傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、それぞれ選べ。

(ア)と(オ)が、「訓」の漢字を「音」で解答する問題。意味を理解していないと解けない点で、日頃から漢字に関して多角的な勉強を積み重ねておくことが望ましい。消去法でも解けなくはないが、このレベルの漢字に関してはすべて自力で書ける力をつけておいてほしい。

- | | | | | | |
|---------|------|--------|-------|--------|------|
| (ア) 垂れる | ① 心酔 | ② 睡魔 | ③ 無粹 | ④ 自炊 | ⑤ 懸垂 |
| (イ) 大概 | ① 該博 | ② 弾劾 | ③ 形骸 | ④ 感慨 | ⑤ 概要 |
| (ウ) 潤沢 | ① 循環 | ◎ ② 湿润 | ③ 殉教者 | ④ 巡回 | ⑤ 純度 |
| (エ) 端的 | ① 丹精 | ② 枯淡 | ③ 大胆 | ◎ ④ 発端 | ⑤ 探究 |

- (オ) 奏で ① 捜査 ② 双眼鏡 ③ 一掃 ④ 奏上 ⑤ 操業

- 正解 (ア) 1 5 (イ) 2 5 (ウ) 3 2 (エ) 4 4 (オ) 5 4

問2 傍線部の理由説明問題 標準

傍線部A「『教えて君』よりも『教えてあげる君』の方が、場合によっては問題だと思えます」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを選べ。

まず気がつくのは、

原因

だから

傍線部A……結果

という、わかりやすい図式になっていることだろう。そこで傍線部Aの理由説明としては、まず傍線部の手前に求めていくことになる。

傍線部Aの直前にあるように、ネット上での「教えて君」は、実は質問の答えを本当は「知っていて、その上でつぶやいた」かもしれないのであり、その点で、傍線部A「『教えて君』よりも『教えてあげる君』の方が、場合によっては問題だと思えます」という結果に至っている。つまり、他者に対して啓蒙的な態度を取っている「教えてあげる君」のほうが、実は「教えて君」よりも程度が低いのではないかと筆者は見抜いているわけだ。では、「教えて君」のほうがマシかというと、そうではない。一見啓蒙的な態度を取っている「教えてあげる君」は本当の意味で知識や情報を持っているわけではなく、また同様に「教えて君」も新しいことを知るために質問しているわけではなく、両者が一緒になって、さらに「啓蒙のベクトルが、どんどん落ちていく」事態を筆者は「ナンセンス」と評している。

こうした点をとらえたうえで選択肢を見ると、正解は③とわかる。残りの選択肢を見ると、

①は、「無責任な回答」と「態度の安直さを許容」が本文に書かれていない内容で、また、「『教えて君』の知的レベルを著しく低下させる弊害をも

たらず」も×。両者ともに知的レベルが下がっていくことが問題なのだ。

②は、「知識を押しつけるばかり」が本文に書かれていない。また、「いたずらに困惑させ」以下の内容も×。教える行為の意味・無意味というのがここで問題になっているわけではない。

④の説明だと、「教えてあげる君」の義務感が空回りして、結局「自分自身の知的レベル」も「社会全体の知的レベル」も向上しない、ということになるが、そもそも筆者はネット上でのこうした「教えてあげる君」のような啓蒙的な態度なんかでは知的レベルは向上しないと思っている。これは、後の問いになるが、問6の①にもあるように「教えて君」「教えてあげる君」の「君」付けの呼称には「軽いからかいの気持ち」が入っているのだから、この選択肢の内容は根本的に×になる。

⑤は、「自己満足を目的として教えている」が本文にナシで×。また、「『教えて君』の知的レベルを向上させることには関心がない」わけではなく、「教えてあげる君」は自分なりに啓蒙的な態度を取って教える側に回っているはずなので×。

正解 6 ③

問3 傍線部の理由説明問題 基礎

傍線部B「メロデイを書こうとする音楽家にとっては、これはなかなか厳しい問題かもしれません」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを選べ。

「メロデイ」については第4段落以降に書かれているのでそこから読んでいくが、傍線部の解答の根拠は第5段落中にある。

傍線部中に「これは」と指示語があるので、その指示語の指し示すものをまず捉える。

●傍線部中、あるいは傍線部の直前に指示語がある場合、まずは指示語問題として解く。

新しいメロデイが、それだけ過去に素晴らしいメロデイが数多く紡ぎ出されたということ

→
それ(は別に悪いことではない)

傍線部B「メロディをくこれはなかなか厳しい問題かもしれません」



「これ」の指し示すものが、二文前の内容を指示していることをつかむことが大切。「これ」は、「新しいメロディが、なかなか出てこないということとは、それだけ過去に素晴らしいメロディが数多く紡ぎ出されたということ」の箇所を指している。まず、選択肢中にその要素があるかを確認すると、①と④は、「過去のメロディ」についての説明がないため×。

次に、「厳しい問題」の理由をもう少し正確に探すと、もう一文前に、「誰かがふと思いついたメロディが過去に前例があるということはある意味で不可避免と言ってもいい」とあり、現代の音楽家が完全にオリジナルな新しい音楽を作り出すことが「厳しい問題」である理由を挙げている。この二つの要素を完全に満たしている選択肢は②。

③は、「社会的な認知を得ていくために、たえず新しい曲を発表しなければならず」が本文に書かれていないので×。

⑤は、「過去に作られたメロディとの違いを確認する必要がある」以下の内容が本文に書かれていないので×。

正解 7 ②

問4 傍線部の内容説明問題 標準

傍線部C「『歴史』の崩壊」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを選べ。

まず、傍線部Cにおける「歴史」とはどのようなものかをとらえる。

第8段落以降を読むと、かつての「歴史」というものは、「どこかに起点を設定して、そこから現在に連なっていく、あるいは現在から遡行していった、はじまりに至る」という時間的な経緯というものを重視していた。しかし、ネット以後は「歴史」を「一個の『塊』マッス」として丸ごと捉える考え方がメインになったと書かれている。

また、第8段落には、「ネット以後、そういった『歴史』を圧縮したり編集したりすることが、昔よりもずっとやり易くなりました」とあり、続けて「時間軸を抜きにして丸ごと捉えることが可能になった」と書かれている。

つまり、従来の時間的な経緯を重視していた「歴史」から、ネット以後は「歴史」全体を「塊」で捉えるようになったことを、傍線部C「『歴史』

の崩壊」だと筆者は考えていることがわかる。そうした説明になっているのは④。

①は、「過去の出来事と現在の出来事との類似性を探し出す」が×。「両者の本質的な」以降の説明も×。本文の内容に反している。
 ②は、ネット以後に「累積された過去に内在する多様性を尊重することが要求されるようになった」とあるが、これだと「歴史」を「塊」で捉えるという内容とは正反対の捉え方になっているので×。

③は、「過去の出来事を重要度の違いによって分類すること」が×。「重要であるか否か」以降も×。本文にはネット以後の歴史の捉え方が「重要度の違いによって分類すること」になったという記述はない。

⑤は、後半の「時間的な前後関係や因果関係を超えて結びつく過去と現在とのつながりを歴史と捉える理解の仕方」が×。この説明は従来の「歴史」の捉え方とは全くちがうものなので、それが「通用しなくなった」という説明は成り立たない。

正解 ⑧ ④

問5 筆者の考えを問う問題 基礎

この文章全体を踏まえ、「啓蒙」という行為に対する筆者の考えをまとめたものとして最も適当なものを選べ。

「啓蒙」について筆者の考えとして、もっともはっきり書かれている箇所は第11段落である。

本文を抜き出しながら筆者の考えをまとめると、「最低限のリテラシーを形成するための啓蒙の必要性」は、「ここまでくると、啓蒙も必要なのかもしれない」、「けれども、やはり僕自身は、できれば啓蒙は他の人に任せておきたいのです」。「僕はそれとは異なる次元にある、未知なるものへの好奇心／関心／興味を刺激することの方をやはりしたい」となる。

こうした説明をうまくまとめている選択肢は②。

①は、後半の「そのため」以降が×。筆者はあくまで「啓蒙」に関しては、他の人に任せておきたいと述べている。

③は、「あえて他者を啓蒙する場にとどまり続けたい」が×。筆者の主張の逆。

④は、「啓蒙という行為に積極的に関わることで人々の倫理意識を高めたい」が×。これも筆者の主張の逆。

⑤は、「あえて啓蒙の意義を否定し」以下が×。筆者は、「啓蒙」の必要性は認めている。

三行にわたる選択肢が並ぶ設問であり、文章全体を踏まえて「啓蒙」という行為に対する筆者の考えをまとめたものの真偽を判定していく問題なので、正解を選んだうえで、残りの選択肢の間違いを必ず確認することも大切だ。

正解 9 ②

問6 本文の表現に関する説明問題（不適当なものを選ぶ） 応用

この文章の表現に関する説明として適当でないものを二つ選べ。

まず、「**適当でないもの**」を選ぶという設問であることに注意しよう。消去法で考えて、×がついた選択肢が正解になる。各選択肢が「第○段落の……」についての説明になっているので、一つ一つ本文と対照させながら正否を判定していこう。

① 「教えて君」と「教えてあげる君」の「君」付けは、「軽いからかいの気持ち」を示しているかどうかがだが、「教えて君」と「教えてあげる君」は、第1段落で「啓蒙のベクトルが、どんどん落ちていくこと」の例えとして出されているものなので、ここでの「君」付けは、「軽いからかいの気持ち」を含んでいるものと見てよい。問2の選択肢④のところでも考察したので、参考にしてほしい。

② は、判断に迷う。筆者は丁寧の助動詞「ます」を第3段落では最初から文末に持ってきている。選択肢にあるように、第3段落の後半以降、「ます」が出てこなくなっているのは事実だが、それが「内容そのものの説明に重点が移っているから」と言えるかどうかは判断しづらい。「ます」の付いていないのは「しかしその一方で」以降の文末で、内容的に筆者の主張したい方向であるのは確かなので、これを「間違い」とするのは難しく、どちらかといえば、「正しい」と判断したいところだ。そこで、ひとまず保留して次の選択肢へと向かおう。

③ 第4段落の末尾を見ると、「そのこと」という指示表現を挟むことによつて、「なぜかよく似てしまう」という筆者の主張を際立たせている。単純に下が続けていくよりも、あえて一呼吸置いて読点を打ち、さらに「そのこと」と指示語で指し示すことで、重要度が高い内容であることを表そうとしている表現である。しかし、選択肢では、「次の段落への接続をより滑らかにする働きをしている」となっており、これはまったく逆の説明になっているので×。これが一つ目の正解。

④ における第5段落中の「くない」という打消し表現の箇所を見ると、「事実を認めるしかない」「くめげる必要はない」「くということではない」「く自体は罪ではない」などであるが、これが果たして選択肢の説明のように「肯定の立場から否定の立場に転じて論じているから」と言えるかどうかを確認する。第5段落後半の内容は、メロディを書くこうとする音楽家が突き当たる問題についての考察になっている。ここでは、自分の作っ

たメロディが過去の何かに似てしまったとしても、めげる必要もない代わりに、一方、知らなかったんだから何が悪いというものでもなく、知らないより知っていた方がいいと論じられている。したがって、特に肯定の立場から否定の立場に転じて論じているわけではないので×。これが二つ目の正解。

この時点で正解の二つが見つかったので、保留にしておいた②は内容的に正しいと判断する。そして、残りの選択肢が正しいことを確認していく。ただしこれ以降で、もし確実に×が付く選択肢が見つかった場合は、もう一度検討しなおすことを忘れないようにしましょう。

⑤は、少し迷う。第7段落第3文の「しかし」と、第4文の「しかし」という接続詞が、どちらも第2文に対して逆接関係になっているかどうか問題。よく読むと、第4文の「しかし」の中の「それら」が、第2文の「目の前に立ちはだかつてくるもの、あるいは視線の向こう側に見えるもの」を指し示しており、同様に、第3文の「しかし」の中の「それ」も同じものを指している。つまり、第4文も第3文も、第2文中の同じものを指し示して逆接的な内容を述べていることになるので、正しい説明と言える。「指示語」をつかんで解答するというのは、現代文読解の基本なので、この選択肢を間違いと捉えてしまった人は、「指示語」を見落とさず読解する訓練をしてほしい。

⑥ 第8段落第1文の「歴史」は、「われわれく考える」という文脈の中にあるので、一般常識的な「歴史」、つまり「従来の捉え方による歴史」のことであり、カギカッコを付けた理由は、その「歴史」を際立たせるためと考えられるため、正しい。問4にも絡む内容なので、素早く正しいと判断できてほしい。

⑦ 第10段落の第2文の「これはある意味では」が指し示す具体的な内容は、本文中には見つからないため、説明通り「婉曲な言い回し」であると判断できるので、正しい。

⑧ 問5で見たように、「けれども、やはり僕自身は、できれば啓蒙は他の人に任せておきたいのです」と筆者は考えている。したがって、第11段落第7文のように「なさって」という尊敬表現を使うことは、自らは啓蒙をせず他の人に任せたいと思っているからであり、その人たちとは距離を置く意識をはっきりと示していると考えられるので、正しい。

正解 10・11 ③・④ (順不同)

第2問 小説 小池昌代「石を愛でる人」

〔総括〕

この三年、大正から昭和初期にかけての近代小説からの出題が続いていたが、四年ぶりに現代作家である小池昌代の小説「石を愛でる人」の全文が出題された。本文の量は昨年よりも短くなっているが、選択肢は全体にやや長くなっている。前書きに「小説」とあるが、内容的には詩人である筆者の個人体験をもとにした「随想(エッセイ)」に近いものである。登場人物が少なく場面転換もさほど多くないので、そうした点で読解に苦勞することはないが、「山形さん」と「石」に対する「わたし」の想いを丁寧に読み取る必要がある。

設問別では、問1の語句の意味の問題は例年に比べるとやや易。問4がやや難。選択肢を吟味する必要がある。問6は二つとも正解するのが難しい問題。昨年に比べるとやや難ではあるが、センター過去問中では、例年並みのレベル。

〔解説〕

問1 語句の意味の問題 (ア) 基礎 (イ) 基礎 (ウ) 基礎

傍線部(ア)～(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、それぞれ選べ。

「本文中における意味」を問う問題ではあるが、あくまで「辞書的な意味を優先して解く」というのは例年通りの鉄則パターン。今年の問題に限らず、こうした慣用表現には日ごろからいろいろな媒体を通して慣れ親しんでおき、語彙力を増強してほしい。下手に文脈に戻して判断すると間違える可能性のある問題が出題されている。

(ア)の「透明な」は、「透き通ってにがりのないこと」なので、ここでは③「まじり気のない」が正解。

(イ)の「とくとくと」は、「得得と」と書き、「得意そうなさま、自慢げなさま」の意味で、⑤「いかにも得意そうに」が正解。

(ウ)の「追い討ちをかけて」の「追い討ち」は、「弱まっているところに重ねて打撃を与え、さらに厳しい状態に追いやる」の意味で、選択肢では③「しつこく働きかけて」が正解。

正解 (ア) 12 (イ) 13 (ウ) 14

問2 傍線部の内容説明問題 基礎

傍線部A「言葉を持たない石のような冷やかさが、その冷たいあたたかさが、とりわけ身にしみる」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを選べ。

傍線部Aの直前に「だから」とあるので、直前の原因を押さえる。すると、「人間関係の疲労とは、行き交う言葉をめぐる疲労である」と書かれているところから、「石のような冷やかさ」が、筆者にとって「冷たいあたたかさ」と感じられ、「とりわけ身にしみる」理由は、人間関係の煩わしさに疲れた筆者にとって、言葉を持たない石との関係が、かえって安らぎを与えてくれるものだとわかる。

言葉を持たない石が、言葉を持つ人間との対比において、逆説的に筆者にとって「冷たいあたたかさ」と感じられ、「身にしみる」ように感じられる最大の理由は、言葉を持つ人間関係の煩わしさに疲れていたからであり、その点を押さえれば正解できる。

選択肢を見ると、そうした説明になっているのは②のみであり、他の選択肢はそうした点に触れていないので×。
一応、残りの選択肢も見ておこう。

①は、「物言わぬ石がもたらす緊張感」が×。「人としての自信を取り戻させてくれる」も×。
③は、「物言わぬ石の持つきびしい拒絶感」が×。「周囲の人との心の通い合いの大切さがかえって切実に思えてくる」が×。これだとまるで逆の説明になっている。

④は、「現実の生活では時に嘘をつき自分を偽る」が本文に書かれていない内容で×。
⑤は、「距離を置いて見つめ直してみる」が本文に書かれていない内容で×。

正解 ②

問3 人物像の問題 基礎

わたしの山形さんへの見方は、この文章全体を通してみると変わっていくが、29行目から57行目までに描かれた山形さんの人物像はどのようなものか。その説明として最も適当なものを選べ。

29行目から57行目までに描かれた山形さんの人物像と選択肢の要素とを照合していくので、解き方としては消去法を使うのがよい。

①の「繊細な内面に凶々しく入り込んでくる」は、本文では53・54行目に「ずうずうしさがあつた」と書いてあるものの、その「ずうずうしさ」は山形さんの言い方についての感想であり、筆者の「繊細な内面」に入り込んでくる「ずうずうしさ」ではないので、×。いわゆるひっかけだ。

②は、「楽しさを説いて自信を持たせようとする度量の大きさ」とあるが、本文では49行目にあるように「自信を持って決めつける」は山形さんであり、「わたし」に自信を持たせようとしているわけではないので×。これもひっかけだ。①と同様、本文にある言葉を用いて作られている選択肢だからと言って、安易に飛びつかないようにしたい。

③の「無表情のままに慰めてくれる」は本文の46・47行目の「石のように表情のない顔で、のんびりとなくさめてくれた」に対応しており、「不思議な優しさ」や「揺るぎない態度でわたしの心情や行動を決めてかかる強引な人物」は47～49行目と51～54行目の内容をまとめたものと考えられる。したがってこれが正解。

④は、「わたしの心を気遣うふりをして、自身の趣味である石の魅力に引き込もうとする自信家」というのは正確には本文からは読み取れない。仮にそういう意図があつて山形さんがわたしを石の展示会に誘つたのだとしても、「わたしの戸惑いをくみ取ろうとしない無神経な人物」という説明は当てはまらないので×。山形さんは、自信家でずうずうしい人ではあつても、テレビに出演して落ち込んでいたわたしを「のんびりとなくさめてくれた」人でもあることを読み落とさないようにしたい。

⑤は、「話題をそらしてごまかし」たわけではないので×。また「当初のく無責任な人物」という説明も間違っているので×。

正解 16 ③

問4 傍線部の理由説明問題 標準

傍線部B「当日は雨だった。しかし石を見に行くのにはいい日のように思われた。」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを選べ。

傍線部Bは直前とは場面展開上切れている箇所にかかれていているものなので、その理由説明としては、直後に書かれている、わたしが傘を好きな理由をまずは押さえる。

わたしは傘が好きだと書いたうえで、その理由を「ひとりひとりの頭のうえに開き、ひとりひとりを囲んでいる」からだとしている。同時にそれは、

65行目にもあるように、「拾った、拾われた」という人と石とのシンプルな関係に似ていると「わたし」は考えた。つまり、「わたし」にとって、「石」も「傘」も自分の世界とシンプルに対応し、59行目にあるように、一見「寂しい、独りきりの傘のなか」の、「華やかな世界」であるとわたしは捉えているのだ。ここは連想ゲームのような感覚で捉えられたかどうかのポイント。

○雨↓傘↓ひとりひとりを囲む↓(女性詩人の言葉) 寂しい、独りきり華やかな世界↓わたしにとっての石と似ている

選択肢を見て行こう。

①は、後半の「傘が」以降の説明は、先ほどの本文の読解通りで問題ないが、**選択肢の二行目途中までの「石」と「わたし」との関係の説明が解答として必要なかどうか判断に迷う。**確かにわたしは水辺の石を持ち帰ったりすることがあり、濡れた時の石の魅力やイタリアから持ち帰った石の魅力などについて前半部分で語っている。しかし、「この日は雨が降っており、様々な状況によって魅力を増す石を觀賞したくなる雰囲気だと感じられ」たかどうかは傍線部の前後からは読み取れないので、保留しておこう。

②は、まず「河原のようなアトリエにも水石の世界があることを知ってから」とあるが、その事実を知ったのは傍線部Bより後のことで、時系列的に間違っているので×。わたしは「水石」というものをそのアトリエで「始めて知った」と書いている。また、「石の魅力を味わううえで、雨が思わぬ演出効果をもたらす」も×。ここでは「濡れている石」と「雨の日の傘」がわたしにとって似た魅力を持つものであることを述べているのであって、雨が石にとって演出効果をもたらすという説明は間違っている。

③は、本文に引用されている女性詩人の顔に刻まれた深い皺が、「水や光によって微妙に表情を変える石に似た魅力があった」とまでは書かれていないので×。また、傘を愛していた女性詩人に共感していたのは事実だとしても、その「共感」が「石を見に行くのにはいい日のように思われた」との直接的な理由というわけでもない。「傘」と「石」との類似性こそがここでの直接的な理由である。

④は、「乾いた石に愛着を覚えていた」とあるが、筆者が人間関係の悩みから解放され安らぎを感じるのには、イタリアのアッシジで拾ってきた大理石石のかげらの石に対してであり、(濡れた後の)乾いた石ではないので×。乾いた石に関しては、海や川で拾ってきたが、乾くと「魅力を失い、がらくたの一つになってしまった」と書かれている。また、「テレビに出演して自己嫌悪に陥ってからは」とあるが、時系列としてこの説明が正しいかどうかは本文に根拠がなく、おそらくテレビ出演以前でも同様の感覚をわたしは持っていたと思われる点でも間違いと言える。

⑤は、「雨の日はかえって外出の億劫さが和らぎ、他人の目を気にせず石を見に行くことができる」という内容は、本文には一切書かれていないので×。

以上、選択肢①～⑤までを検討した結果、保留にしていた①以外は確実に×が付くので、消去法で①が浮かび上がってきて正解とわかる。

正解 17 ①

問5 心情説明問題 標準

傍線部C「何かを何かを少しづつひびびっている、その日は、そんな感じの日であった。」とあるが、わたしはどのようなことを感じはじめているのか。わたしの中で起こった変化を踏まえた説明として最も適当なものを選び。

傍線部Cの直前に、「わたしもそのとき、山形さんに、心を惹かれていたのかもしれない」とあるように、わたしと山形さんとの二人の心の距離が近づいている様子が書かれている。傍線部Cの「何かを何かを少しづつひびびっている」というのは、二人のそうした関係性のことを暗示している読み取れる。

選択肢では、二人の心の距離が近づいている様子について触れていない③・⑤は×。また③は、「彼の見識の高さに感動した」以降の説明も×。⑤は、わたしと石との関係が「山形さんと関わるうちに少しづつ壊れてきている」という説明も全くの間違いで×。「孤独な詩人であることから脱しつつある」も×。

①は、「自分にもそうした両面があることを発見し」とあるが、「そうした両面」が指し示す「強さと弱さ」をわたしが持っていることを発見したということは本文には書かれていないので、×。

②の説明は、どの要素も本文に書かれている内容で特に問題なく、これが正解。

④は、「山形さんが石を愛するようになったことで孤独から脱するきっかけを得たように」が本文に書かれていない内容で×。また、「わたしを今までの自分とは違う人間に変えるかもしれない」は、可能性としてはないとは言えないが、傍線部の「何かを何かを」という二人の関係性についての説明ではなく、わたしをみの説明になっている点で×。

正解 18 ②

問6 表現の特徴・叙述の説明問題 ① 応用 ⑤ 基礎

この文章の表現に関する説明として適当なものを二つ選べ。

新課程になってから、小説の最後の問題はこうした「表現の特徴」や「叙述の説明」について問うものが連続して出題されている。昨年同様、今年も正解を「二つ」選ぶ形式になっている。

解法としては、選択肢を要素に分けて○×を付け、基本的に消去法で解くのが確実。また、選択肢同士を比較して解くという視点も有効だ。一つずつ選択肢を見ていこう。

●「表現の特徴」や「叙述の説明」で二つの正解を選ぶ場合、一つはすぐに正解とわかる場合が多く、もう一つの正解はすべての選択肢を消去法で確認した後、残ったものを選ぶという手順を取る。

今年度では、⑤は確実に正解できる内容であるが、もう一つを正解するのが難しい。

① 「アイセキカ」とカタカナ表記してある理由は、まず3、4行目にも書かれているように、「アイセキカ」を「愛石家」と即座には判断できず、音だけでわたしが理解したことにある。つまり、「アイセキカ」と聞いたときに「愛惜家」かな？ と思ったように、世の中に「愛石家」なるものが存在するとはわたしには思えなかったのである。

その後も漢字表記の「愛石家」ではなく「アイセキカ」とカタカナで書き続けている理由は、21行目に「わたしだって、充分、アイセキカの一人ではないか」とあるように、いわゆる「愛石家」に含まれないわたしも含めた広い意味での石を愛する人の意味で「アイセキカ」と表記していると考えられる。したがって、①の説明は正しい。ただし、この選択肢をすぐに正解と選ぶことは難しいので、⑥まで検討したのち、戻ってきて正解とするというのが正しい手順だろう。

② 48行目の「こいけさん」という山形さんの語りかけは、問3の山形さんの人物像でも見たように、「無表情なままに慰めてくれる不思議な優しさを持つ」もので、「わたしの後悔を他人事として突き放すような、投げやりなもの」という説明は当てはまらないので×。ここでは問いと問いとを連動して解く視点が有効だ。

●「表現の特徴・叙述の説明」や「内容合致」問題の正解の選択肢の内容は、他の問いのヒントになる可能性が高い。最後まで解き終わったら全体をもう一度俯瞰して眺め、関連する問いがあれば結び付けて有機的に解きなおすという作業は非常に有効だ。

③ 63行目の「小石ども」は、石を見下した表現ではなく、直前にも「期待したとおり」とあるように、石を愛する人が拾って展示したものを見に来たわたしの期待と親愛の情を表したもので、**「軽んじる気持ちが生じた」という説明は×**。問4でも考察したように、雨の日に石を見に行くのはわたしにとっていいものであるはずなので、「他人が拾った『小石』を軽んじる」はずがない。

④ わたしが山形さんに徐々に惹かれていったのは事実だが、それと反比例するかのよう「石からは次第に心が離れつつある」というのは間違いで×。これも問5で考察した内容に反する。

⑤ は、カッコとカギカッコの表記の違いの説明だが、77行目以降のカッコは「わたしの思念や、わたしが山形さんの思念を推測したもの」であり、カギカッコは「わたしにはつきり届いた声である」ことは、本文を読めば確実にわかるので正しいと判断できる。

⑥ 「サククスとピアノの音」という主語に対して、「あふれる」「流れ出る」という動詞を通常使うかどうかの判断は難しいので保留するとしても、後半の「詩人であるわたしの表現技巧が以前と比べて洗練されたことを表している」が×。本文には「わたしの表現技巧」について、以前と今との洗練の度合いを比較している箇所は見つからない。

正解 19・20 ①・⑤ (順不同)